

地方自治ここにあり 首長インタビュー

「日本一の梅の町」の持続的発展

キーワードは

「健康」「教育」「観光」

みなべ町長 小谷 芳正



小谷芳正みなべ町長

平成の市町村合併から9年。文字通り「日本一の梅の町」となったみなべ町。「梅」のもつさまざまな機能、価値に光を当てるとともに、ブランド力の強化を目指す。その先頭に立つのが小谷芳正町長。
今月の首長インタビューは、和歌山大学経済学研究所に在籍し、梅産業を中心に地域産業の発展（産業複合体）を研究している権梅紅さんがインタビューとなり、小谷町長にお話を聞きます。

南部郷の再構築となった
平成の市町村合併

権：私は中国山東省青島の出身で、権梅紅と申します。現在和歌山大学大学院で和歌山県の梅産業について研究しています。きょうは、日本一の梅の町・みなべ町

の町長さんとお話できて本当に感激しております。よろしくお願いたします。

町長：こちらこそ。しかし、梅紅さんって、ええ名前やな。

権：ありがとうございます。それで、最初にお聞きしますが、町長さんというのは、どういうふうな仕事をされていますか。

町長：町民が安心をして暮らしていただけるような、町づくりを進めていこうという仕事かな。町民の生命財産、暮らしを守るためのことをやる。教育や福祉、産業の振興ですね。

権：町長は、選挙で選ばれているわけですね。選挙の中で一番ポイントにしたことは覚えてますか。

町長：そうですね、まず住



民の皆さんに、住んでよかったと思ってもらえる町にしますって言うたんです。具体的な政策を言い、当選したらしたで、そのとおりしなきゃいけない。

権：町長にならうとお考えになったのは、どのようなことからですか。
町長：旧南部町と旧南部川村が、平成16年の10月1日に合併して、新しい、ひらがなのみなべ町になったわけなんです。合併するまでに、双方寄つての協議会の事務局長をしておつた関係で、町づくり計画をつくつたんで、その仕上げをしてみたいというのがあり

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー みなべ町長 小谷 芳正	1
記念講演 市民の力による舞鶴かまぼこ調査・提言が 賑やかなまちづくりへと動き出す まいづる市民自治研究所事務局長 長谷 博司	5
奥熊野・北山村の民俗誌を編んで学んだこと 杉浦 有紀	9
咲く 戦争があつて⑧ 桜井志代子	12

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市湊通丁南1丁目1-3 名城ビル3F
TEL・FAX 073-425-6459
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2013年8・9月号



インタビューを受ける小谷みなべ町長

ました。
権：実際に、町長さんになられて、感じていることは何ですか。
町長：うーん。まず合併前には、両町村、けんかすることのないように、融和一体化をして合併しようというふうに進めてきたわけなんです。南部川村と南部町の合併は、理想的な合併というふうに言われて、そういう合併だったと思う

んです。昔からひとつの南部郷という地域があった、それがたまたま一緒になった。田んぼの畦道ひとつで町村の境界だったんで、南部の名前が、南高梅、紀州みなべの南高梅で、全国的にも名前売れてるんで、これは変えるつもりはなかった。最初のうちはいろいろ、旧村、旧町言われたけど、もう今となったら特段ないですね。

権：町の仕事は、どの比率が一番多いですか。教育と産業の方と、福祉とでは。
町長：やっぱり産業かな。みなべ町は、第一次産業の町というか、ほとんど農家なんです。若い人に残っていただくのも、まずは経済的に安定をしないと、若者は都会の方へ出ていきます。

梅です。梅をいかに消費者に買っていただけかです。権：梅の収穫がいまピークですが、収穫量は、大体どれぐらいになりますか。
町長：3万トンぐらいですね。生産量が伸びてきたというよりも、栽培面積が増えてきたんで。



うめ振興館

全国的に栽培面積が増える率よりも、みなべ町独自で栽培面積が増える方が大きいんです。
権：収穫量は、変わりがありませんか。
町長：いや、やはり若干増えてはきてますけども。

町長：いや、やはり若干増えてはきてますけども。

町内の7割が 梅関連産業に従事 落ち込む梅干しの消費

権：産業振興は、具体的にどんなことをされてますか。
町長：みなべ町の産業、農業の一番大きな柱はやはり、

権：梅産業に関する方は、みなべ町でどれぐらいいらっしゃいますか。
町長：どれぐらいかなあ、まあ梅を作っている農家はそうだし、梅干しに加工する企業関係、関連して、容器を作る会社。段ボールの会社、印刷会社、ひっくりめたら、町内で7割ぐらいが、梅に関係する仕事に就いとるんかな。ほいで、みなべ町は昼間の方が人口多いわけです。加工業者へ

働きに来る方が多いということですね。
権：梅は、やはり南高梅が中心になっておりますか。
町長：そうですね、もう大半、約85パーセントが南高梅ですね。

権：梅の価格や、農家、加工業さんの収入とか売上は安定していますか。
町長：いや、やはり、自然にあるものなので、量が多いと安いし、少ないと高いという、それとあと、消費者の皆さん方が、梅干しを食べていただける方がだんだん減ってきた。若い方なんかなかなか食べていただけないというのがあるって、1戸あたりの消費支出からいくと、だいぶ減ってきたんかな。ここ20年あまりで、ぐっと落ち込んでます。消費低迷と、あとは大きな要因としては、経済が悪くなって、デフレ傾向になって、高い、高級品が売れない。B級品ばかりが売れていくとい

権：梅は、高級品ですか。
町長：どうですか、高級品ですかね。昔であれば必ず食卓に載っておった梅干しが、だんだん、数少ないさかいに高なつたというのもあるんやろし。高級志向で景気のいい時代にどっと盛り上がったんで、それからいくと若干下がってはきたかなと思うんですけども、折角、ブランドとして名前が売れてあるんで、今止めるわけにはいきませんので、今後も引き続き、食べ

ていた方法、いま考



健康になる梅パワー

えておるんですけども。
権：農家とか、加工業者の年収はいくらぐらいになりますか。

町長：調べてないけども、農業でいくと、全国平均よりは高い。去年、和歌山県下30市町村で、全国平均を上回ったのがみなべ町だけでした、どれぐらいあるのかな。

権：みなべ町の財政とか収入に占める梅関連産業のウエイトはどれぐらいになりますか。

町長：80億の町の予算の中で、4億ぐらいです。農家

の方とか、加工業者の方からの税収というのは。予算からいくと、非常に少ないなどとは思ってないけども、ただ、みなべ町全体のGDP、総生産額が、ざっと4

65億あって、そのうち農業が11パーセント占めておると、50億近いのかな。製造業が26パーセントを占めてますんで、4分の1、1

15億ぐらいが製造業、それを合わせますと37、8パーセントを、梅で占めています。あと、関連企業、容器であったり段ボールであ

ったり印刷であったり運送

会社であったりというのがあるんで、どうですか、半分以上は梅に関係してあるのかなと思います。一時、梅関係でみなべ町内では300億と言われたんですけども、今はちよつと下がってます。

梅の消費拡大戦略

第一の矢は健康戦略 特許も取得

権：梅のブランド力を高めるため、今、町が取り組んでいるのはどういうことですか。

町長：いかに消費してもらえるか、そのために、梅干しは健康にいいということで、機能性で売り出しておるわけなんです。今後は、スポーツ用梅干しということで、スポーツ選手に梅を食べていただくこと。梅を食べるとなれば疲労回復にいいんか、各大学で研究してもらってます。あと、梅干しを食べると胃潰瘍の原因になるピロリ菌の動きが止まったり、糖尿病を抑えられたりすると、これは医学

的に証明をされて、みなべ町で特許を取得いたしました。健康に非常にいいということ、今

町長：全国平均でざっと年間30万です。1人医療費は。和歌山県も29万7、8000、みなべ町は20万なので、医療費の高いこと比べれば半分以下やな。メタボの率も、県下で一番低い。そんだけ皆さん、梅を食べて、健康かなというふうには思うんですけども。

権：梅の食習慣が、根付いていると思います。

梅と教育をつなぐ 小学生から高校生まで

町長：今、子どもの時代から梅干しに慣れ親しんでも



医学的にも証明された梅の特許証

らおうということで、学校の教材園で梅の収穫して、塩漬けて、ほいで夏場土用干しで梅干しに干し上げて。それを毎日給食のときに食べてもらう。子どもの時代から、梅の漬け方というんですか、を教えていかんと。

権：これってやっぱり、教育ですね。

町長：そうですね、梅の作り方とか文化の。学校でできた梅干しを、学校の中で売るわけなんですわ。そうすると、おじいちゃん、おばあちゃんが来て、買って帰



みなべ町庁舎

る。孫作った梅干しやさかに買おうて。やっぱり梅に、毎日食べて、親しんでもらうという習慣づけですか。

若い方々の発想は大事ですね。南部高校の女の子たちは、それをスイーツの中に入れたり。何か甘い梅干しを作ってみたり。あとはもう調味料として、練り梅、梅干しをつぶしたやつを、パンにも塗れるような

感じにしたり、そこらが若い方々の発想ですか、それを広めていきたい。権：商品化したものもあるんですか。

町長：ジャム、梅ジャムですか。今、どんどん売れておるのは、トマト梅ですか、甘い梅干し。トマト味のする梅干しなんですけども、スイーツ感覚で食べてもらえる梅干しが今どんどんどんどん出てますけども。権：トマト梅って、品種なんですか。

町長：いや、ミニトマトをつぶした汁に、梅干しを漬け込んで、ほいでトマトの汁を吸わせてやるという。それだけのもんなんですけど。農協で作ってます。関東、特に東京辺りへ行くと、女子中学生、女子高校生に非常に人気があると。まだ発表はされてないけれど、南部高校に3年卒業するとき、全員調理師の資格を持てるような、調理学科を考えておるわけなんです。製菓コースがあったり、洋菓子かな、そんなを作ろうと、今動きをちょ

っとしとるんですけどね。権：おもしろいですね。町長：年寄りばかり、いくら集めても新しい発想出てこん、やっぱり梅干しなんです。

「日本一の町」の課題も見えている

権：梅は食品としてだけではなくて、健康や観光、そして今言った教育なんかにも結びついて、いろいろな取り組みが考えられていますね。

町長：体験型観光ですね。みなべへ来ていただいて、ほいで梅畑で自分で梅の実を収穫して、梅ジュースを作って、持って帰ってもらう。その体験型修学旅行が非常に伸びてきてますね。権：総合的な取り組みと、ブランドのブラッシュアップですね。

町長：うーん、まあ20年前までは、右肩上がりです。売ってきた、放ついても売ってきたというのがあって、あぐらをかいておった部分があった。これからは健康

と、それに加えて美容の部分も何かできれば、美容と健康で、やっていきたいなと思うんですけども。

権：そのほか、日本一の梅の町の課題は何でしょうか。町長：やはり、今の消費低迷、ですんで消費を伸ばすということ。価格の安定を目指していかないと、若者は残っていただけん。後継者問題は、若者が結婚しないっていうんか、既婚率が低いっていう問題があります。新規就農者対策も課題です。いまは元々の農民たちが続けていく感じですね。あと、鳥獣害対策ですね。イノシシ、サル、シカの被害が深刻です。

権：なるほど、日本一でも課題があることがわかりました。これからの町づくりですが、町長さんがお考えになっているのは、どのようなことですか。町長：町づくりですか。や



対談を終えて インタビュアーは権梅紅さん

はりもう、安心をして、ゆとりを持って、生活をできるような、環境づくりをしたいなということですね。産業は、梅を柱にして。町長としては、親切的な行政、清潔、公正、親切的な行政をする、と合わせて、滅私奉公ですか、ね。権：きょうは、ありがとうございました。町長：こちらこそ、ありがとうございました。

